

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	甲状腺眼症に対する斜視手術時の徐脈の発生率とその危険因子に関する研究
研究機関の長（試料・情報の管理責任者）	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 教授（特任） 高橋靖弘
研究の対象となる方	2016年1月から2024年9月までに甲状腺眼症に対し斜視手術を受けられた患者さん
研究期間	研究実施承認日 ～ 2025年12月31日
研究目的及び利用方法	〔研究目的〕 甲状腺眼症においては、眼を動かす外眼筋に炎症が起こることで斜視になり、複視（物が二重に見えること）を自覚します。消炎治療を行っても斜視が残ってしまう場合には、斜視手術が必要となります。術中、外眼筋を牽引すると眼心臓反射と呼ばれる現象により脈が下がり、時には心停止となることがあります。本研究では、甲状腺眼症の斜視手術における徐脈の発生率とそれを引き起こす危険因子があるかを調べることを目的としています。 〔利用方法〕 診療情報の収集目的で、カルテを利用します。またMRI画像も確認します。得られたデータから、徐脈の発生率を計算し、徐脈発生の危険因子について統計学的に分析します。 〔外部への試料・情報の提供〕 非該当 〔外部への提供開始日〕 非該当
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：非該当 情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、左右、身長体重、視力、甲状腺の状態、既往歴、βブロッカーの使用の有無、眼球突出度、眼窩減圧術施行の有無、術前斜視角、斜視手術の内容、全身麻酔の内容に関する情報を収集。また外眼筋の太さを測る目的でMRI画像を用います。
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当

試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025 年 6 月 30 日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)